

やさしい視線・静かな怒り

詩画人・四國五郎が伝えたかったこと



▲ 四國五郎作《8月6日》

「戦争の記憶」を伝えることを自らの使命と課し、「平和のために」絵と詩を描く人生を生涯貫いた詩画人・四國五郎。

戦争とシベリア抑留、そして最愛の弟の被爆死を体験し、平和のための芸術活動に一生を捧げた四國五郎の「表現」と「生き様」を通して、今、私たちは戦争の記憶をどのように継承し、未来に伝えていくべきなのか。息子の視点から考えてみたいと思います。

四國光



▲ 装丁・表紙画

お話 四國光さん
しこくひかる



◆プロフィール

1956年広島市生まれ。四國五郎長男。早稲田大学第一文学部卒業。電通にてマーケティング局長、電通コンサルティング取締役等を歴任したほか、水中撮影プロデュース、スポーツ事業にも携わる。職業潜水士。NPO法人吹田フットボールネットワーク設立代表。定年退職した現在は、地域スポーツ振興や、父が残した作品を活用し次世代への継承活動に従事している。

日時: 2019年11月27日(水) 18:30-21:00 (開場 18:00)

会場: 東京藝術大学 上野キャンパス 音楽学部 5-109 教室

※入場無料、申込不要。藝大生と一般市民のための講座です。

お問い合わせ: kenpou.geidai@gmail.com (川嶋)

主催: 東京藝術大学音楽学部 楽理科 / 後援: 日本ペンクラブ

共催: 自由と平和のための東京藝術大学有志の会

